

日本人の旅行の形ーコロナによって求められる「安・近・短」ー

〈要旨〉

2019年12月に新型コロナウイルスが中国の湖北省・武漢市で確認されてから、わずか3ヶ月の間に、世界中で大流行するパンデミックとなった。そのため渡航制限や自粛の影響により人流が抑制されている状況である。新型コロナウイルスによる意識変化は、日本人旅行者の動向にどのように影響しているのか。先行研究では、旅行意欲の有無や関心のある要素などのアンケート調査を実施した。その結果、過半数は旅行の意欲がないこと、旅行意欲が高まる要素としてワクチンが開発されたらという意見や、一部を対象にマイクロツーリズムへの関心が高いことがわかった。しかし、佛教大学の学生を調査対象とした結果はあるものの、他の世代や地域で調べた結果は調査されていない。そこで本研究は、全世代を対象に新型コロナウイルスによって新しいスタイルが求められる中、以前よりも近場の旅行が好まれ、大都市圏に近い都道府県ほど観光客数が多くなっていることを明らかにするために、調査を行なった。

第1章では、旅行者数・観光消費額・旅客機利用者数などのデータを用いて、全国的に旅行者数が減少していることを明らかにした。

第2章では、長野県軽井沢町や静岡県熱海市を調査地として、車のナンバープレートに記載されている地名を使いデータを入手する方法をとった。その結果、以前とは異なり遠出を控えて近場のものを注目するようになったことを明らかにした。

第3章では、アンケート調査から、国民の旅行に対する嗜好の変化について調査した。

結果として、近場の旅行をする人が増え、大都市圏に近い都道府県ほど観光客数が多くなっていることが明らかになった。今後は、幅広い都道府県の観光入込客数についても加味した検討が望まれる。